

おれんげニュース

No. 230

2009年5月号



緩木山から越敷岳への縦走路に早くもアケボノツツジが彩りを添えていました。 2009/4/11

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★ ★山行の一步は会合から★

	5月			6月		
運営委員会	12日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	9日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	1日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	5日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	26日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	23日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



5月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり・自然保護	技術研修部	山行部
月 日	1日(金)	2日(土)	15日(金)～ 16日(土)	24日(日)
山 名 (行事)	平野岳(895m)石割 岳・石楠花寺	古賀植木市見学	やくし山(999m) (球磨地方の山)	仙酔峡～高岳・中岳
地 図	黒木・十籠・宮ノ尾	長崎東北部	中津道	阿蘇山ツツジ鑑賞
集合場所	JR 諫早駅裏ロータリ 6:20	JR 諫早駅発 10:01	JR 諫早駅裏ロータリ 6:00	JR 諫早駅裏ロータリ 6:20
	西諫早駅 6:30	or 古賀駅 10:30	西諫早駅 6:10	西諫早駅 6:30
帰着時間	19:00頃	17:00頃	16日 18:30頃	19:30頃
歩行時間	平野岳ゆっくりコース	5時間	1日目 4時間 2日目淡島神社他	4時間30分
難 易 度	平野・石割縦走 中級コース	易しい	中級健脚コース ゆっくりコース	初心者・一般
交通手段	マイクロバス	JR・歩き	マイカー or マイクロバス (参加多数の場合)	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	山田小学校尾寄崎 分校跡施設	日帰り
温 泉	有り	なし	有り	有り
参加費	5,000円	交通費実費	10,000円	5,000円
申込期限	満員になり次第	4月30日(木)まで	満員になり次第	満員になり次第
集 約	米田テイ子	中村かずえ	米田テイ子	中須賀孝正
	0957-26-0146	0957-26-6358	0957-26-0146	0957-26-5153
備 考				時間調整でロープ ウェイ利用も有り 得る。
感想提出	5/11(月)マデ	5/12(火)マデ	5/26(火)マデ	6/3(水)マデ

5月の山行計画

部	技術研修部
月 日	5月21日(木)～22日(金)
山 名	球磨・五木の山 1泊2日で1,000m峰六座
	国見岳・六本杉山・平石山 白髪山・国見山・高塚山
地 図	宮園・頭地
集合場所	J R 西諫早駅 5:55 多比良フェリー 6:55 発
帰着時間	22日 19:00 頃
歩行時間	六座共に往復 30 分程度
難 易 度	初心者向き
交通手段	マイカー
宿泊施設	竹の川ロータリーヒュッテ
温 泉	五木・頭地・子守歌の湯
参加費	10,000 円
申込期日	5月14日(木)まで
集 約	米田テイ子
	TEL 26-0146
備 考	
感想提出	6/1(月)マデ

<六座>

国見岳 (1,030m)	六本杉山 (1,148m)
平石山 (1,129m)	白髪山 (1,244m)
国見山 (1,271m)	高塚山 (1,508m)

技術研修部から

◎5月6月のロープワーク

月 日	5月30日(土) 6月27日(土)
場 所	御館山
集 合	JR 西諫早駅 9時30分

◎沢登り

月 日	6月20日(土)
集合時間	JR 西諫早駅 8:00
場 所	黒木 左俣
詳しくは	川原マデ TEL 43-2909



筒ヶ岳頂上からの降下
2009/4/12



6月の山行計画

部	山行部	技術研修部	自然保護部	ひまわり山行部
月 日	7日(日)	10日(水)	14日(日)	19(金)
山 名 (行事)	烏帽子-木場岳-隠居岳(670m)-八天岳-国見岳(777m)	大根地山(652m)とチベット展	クリーンハイキング 少年自然の家～仏の辻～五ヶ原岳	本明川流域散策
地 図	蔵宿・	福岡の山	長崎北東部	大渡野・富川・湯野尾
集合場所	J R 諫早駅裏 6:20	JR 諫早駅裏 7:00	西諫早駅前 9:00	J R 諫早駅正面側
	J R 西諫早駅 6:30	JR 西諫早駅 7:10		8:50 集合
帰着時間	19:00 頃	1 8 :00 頃	15:00 頃	バス温泉発 14:32 16:32
歩行時間	4, 5 時間	3 時間程度		15 キロ程歩く
難 易 度	軽・中 (歩行時間)	初心者向き	初心者向き	初心者向き
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	マイカー	徒歩&バス(帰路)
宿泊施設	なし	なし	なし	なし
温 泉	有り	有り		本野温泉
参加費	3,000 円	5,000 円	無料	入浴代・バス代
申込期限	6月26日(火)まで	満員になり次第	6月25日(木)まで	6月29日(月)
集 約	中須賀孝正	米田テイ子	水江美栄子	江崎幸子
	0957-26-5153	0957-26-0146	0957-43-4947	0957-26-4819
備 考	ヤマツツジ鑑賞 烏帽子岳-木場から隠居(かくいと発音)国見岳の縦走	九州国立博物館で 4/11~6/14 の日程でチベット展が開催されています	持参するもの 軍手, 火はさみ 弁当・水筒等	登山靴よりウォーキングシューズ 弁当・水筒・雨具 他
感想提出	17日(日)マデ	17(日)マデ	24日(日)マデ	29日(月)マデ



第30回定期総会開催

オレンジハイキングクラブ第30回定期総会は4月4日(土曜日)10時より、西諫早公民館において開催されました。出席者36名(男16名、女20名)はまずまずの出席率。中尾副会長の司会で、総会役員として坂口議長、山下副議長、中野・松園両書記及び中尾議事運営委員を選出し、福岡会長挨拶、川原一之県連理事長、東部山岳会富永正勝さんのメッセージ代読(別紙記載)のあと議案審議に入った。

(1) 活動方針

議案書にそって提案説明と報告がされ、それぞれに質問や意見要望が多数出て白熱した論議が交わされたが、2009年度活動方針・予算は提案通り満場の拍手で承認決定されました。

主な意見要望

- * 会費は前納になっている。規則を守って欲しい。
- * 一般会計とオレンジ基金の記入の仕方が少し異なる。統一した方が良い。
- * 部費を使っていない部もあるが、有効に使うべきだ。
- * 会計代行者を決めておいて欲しい。
- * 会計の大きな金額については、備考欄で内容を具体的に記入した方が良い。
- * バス利用山行では保険をかけるので、変更は遅くとも前々日の午前中までに。
- * レスキューザックはいつも山行に使い有効利用すべきだが、今使用法の勉強中だ。
なおザックカバーも必要だと思う。
- * 県連盟費350円の内訳は、県連に200円、全国連盟に130円、遭対基金に20円です。
- * 山行時、遠くの参加者が駐車場に困っている。御館山の駐車場を利用してはいかが。
- * 山行にはマイカーでなくマイクロバスまたはジャンボタクシー使用がよい。ジャンボタクシー利用の場合会で少し補助して欲しい。
- * 新しく入ったメンバーの為に、以前行った山も、別シーズン別ルートで取り入れるべきだ。
- * 山行計画の際、現地に電話等で通信費がかかっているが算定が難しい。良い方法はないか。
- * 県連の会合(女性担当者会議、九プロ実行委員会等)で出席した場合、交通費が確約されていない。県連に是非働きかけて欲しい。
- * ETCカードは年間手数料のいらぬカードに作り替えるか、またもう一枚増やせば通勤割引

時間帯は殆ど半額になり経費節減となる。

* 30周年記念行事については実行委員会形式で進めていきたい。

(2) 特別議案

宮島茂吉さんの13年連続県内通し平和行進を讃えて平和功労賞の贈呈を決定。記念品としてウォーキングシューズが贈られた。

(3) 新役員

2009年度の役員・各部長・県連委員も満場一致で選出承認されました。なお各部副部長も4月14日の第1回運営委員会で選出されました。

2009年度の新役員の方々です

会 長 福岡正廣
事務局長 兵庫芳隆

副会長 佐原 満子、中尾繁則、平幸紀
会 計 川内美智子
会計監査 田中紘子

運営委員

専門部

組織 部長	富永徳磨	副部長	松本崇、中尾繁則、篠原弘二、松園朱實
山行 部長	中須賀孝正	副部長	篠原弘二、松園朱實、田中静香
技術研修部長	川原慶紀	副部長	米田テイ子
ひまわり山行部長	小山準之介	副部長	中尾繁則、江崎幸子
自然保護部長	中村かずえ	副部長	水江美栄子
事務局長	兵庫芳隆	次 長	樋口千代 山下ちづこ
		会計代行	金丸直美

県連

理 事	宮島茂吉、坂口荘一
評 議 員	福岡正廣、篠原弘二
女性担当委員	松園朱實
遭対基金担当委員	篠原弘二
九ブロ実行委員	福岡正廣、中村かずえ



(4) 山行表彰

最後に、恒例の年間最多山行者の1位から8位までの方に賞品（登山用具）が、また長老の江崎さんと新人で晴れ男として期待されている井星さんに「山の家（登山用具店）賞」が贈られ盛会裡に第30回定期総会を終了しました。

(事務局)

オレンジハイキングクラブ総会へのメッセージ

オレンジハイキングクラブの皆さん総会おめでとうございます。県連盟に集う山の仲間を代表してご挨拶をお届けします。

日頃の山行を中心にした活発な会活動に参加されている皆さんと福岡会長をはじめ役員のみなさんのご努力に敬意とねぎらいの気持ちを表します。また県連盟の諸活動へのみなさんのご協力にもお礼申し上げます。

皆さんの活動はきれいな会報に、意欲的な山行企画や活動報告が反映されていて、連盟に集い交流している各会に刺激と励ましを与えています。

今連盟では「特別基金」と名前を変えましたが、従来の遭難対策基金を新保険業法から除外するように求める課題や事故防止、会員拡大などの課題があります。また「九州ブロック元気の出る集会」を長崎県連盟が担当し、9月5日から6日にかけて大村市黒木で行います。これも多くの会員の方々のご協力をいただいて取り組み、成功させたいと思っています。お忙しい日常とは思いますが、実行委員会への参加をこの場をお借りしてお願い申し上げます。

県連盟理事会も皆さんのご協力を支えにしながら日常の活動を進めて行きます。オレンジハイキングクラブの皆さんがより多くの仲間に登山の楽しさを広め、発展されますように期待し、今日の総会が活発な意見交換で有意義な総会になりますように祈念します。

お願いも含めましたが理事会を代表して連帯の挨拶とします。

2009年4月4日
長崎県勤労者山岳連盟
理事長 川原 一之

第30回定期総会の開催おめでとうございます。

山を通して、一人一人の仲間を大切にしながら、豊かな仲間作りを積み重ね29年、大変素晴らしいことです。

市民に開かれた登山教室や県連をリードする平和活動、ハイキングから岩・沢・冬山まで幅広い登山要求の実現など会員の個性を生かした豊かな会活動の展開。

おらかな雰囲気でのびのび、しかしやる時はやるオレンジH・C。

大好きな仲間たちです。これからもますます豊かな登山を繰り広げて、充実した人生を楽しみましょう。

最後に、オレンジH・Cのますますの進化を確信しています。

2009年4月3日
長崎東部勤労者山岳会
富永 正勝

新会員紹介……会員一同歓迎いたします

4月入会 井星 義さん ☎0957-22-6343

今まで多良岳や雲仙の山、長崎市内の山々に単独で登って
おりましたが、妻や娘に「1人で山に登るのは危険だから
辞めて」といわれていた矢先、ナイスの記事でオレンジ
ハイキングクラブを知り早速入会させていただきました。
趣味は庭いじり、草花が大好きです。皆さんよろしくお
願いします。



水江美恵子さん ☎0957-43-4947

多良岳の山シャクヤク

皆さんご存知のように再入会です。民生委員をやっておりましたので、なかなか
山行に参加できず、やむを得ず脱会しましたが、やはりオレンジも山も恋しくて
寂しい思いが募りました。バスハイクの出発時間を遅らせていただいて、とても
喜んでいきます。前のキャリアが長かったもので、入会早々自然保護部の副部長を
仰せつかりました。頑張ります。

高森 陽子さん ☎0957-24-0561

山が好きで主人と二人で近場の山へ登ったり、年に数度ツアー等を利用してアルプスの
山へ出かけたりしておりましたが、体力が残っている間に出来るだけ数多くの山へ登り
たいと思い、今回入会させていただきました。山以外の趣味はバトミントンです。
よろしくお願いたします。



3月・4月の山行報告

3月15日(日) くじゅうマンサク山行 沓掛山・星生山・指山

<参加者>星生山組A班 中須賀、兵庫、本秀、林田、田村、小宮、(外)井星、藤瀬
B班 篠原、川原、田中し、川内、中野、高橋、
指山組 樋口、中村か、佐原、田中ひ、林、山口い、(外)水江、立川、笹田
会員18名 (外)5名 合計23名

<行程> 諫早駅裏 6:00→7:05 金立SA 7:22→9:18 牧ノ戸峠 9:43→10:10 沓掛山 ?
→11:37 星生山(昼食)12:05→14:16 牧ノ戸峠 14:30→14:40 長者原(指山登山口まで散
策)15:15 → ? 西諫早駅



<感想>

しばらく春らしい陽気が続いていたが、二日前から寒の戻りか、3月の忘れ雪がお山雲仙では降ったそうだ。春の嵐もおさまり、今日は絶好の登山日和になりそう。

しかし、くじゅうは九州の屋根と言われる。積雪もあるだろう。念のためアイゼンをリュックに入れて家を出る。

高速道路を降りてまもなく、雪化粧をした涌蓋山が眺めら

れる。やはり、くじゅうは積もっていた。この時期でも長者原駐車場は半分位、大曲は10台余り、牧ノ戸峠駐車場はほぼ満車、さすが九州一の登山者が集うと言われるくじゅうの人気は凄い。アイゼンを装着し、K救助隊長の指導で、全員ストレッチを入念に行って出発する。

沓掛山へのコンクリート登山道は、雪が踏み固められて滑りやすい。雪を踏みしめるアイゼンの音がサクサク、カツカツと気持ちよく響く。登山道の両側の木には霧氷がついている。今年の雲仙霧氷登山が空振りに終わっただけに、余計嬉しくなる。

沓掛山中腹の展望所で、景色を眺めながら衣服調整。雲一つない青空の下に沓掛山北斜面のまっ白な霧氷と、三俣山のどっしりとした山容が素晴らしい。はるかに由布岳も望まれる。反対側には黒岩・泉水山・八丁原発電所の噴気。



展望台から望む三俣山

ここからは星生山を目指す組と、ゆっくり沓掛山まで行って指山へ向かう組に分かれるため、三俣山を背景にした、全員の集合写真を撮ることになる。しかし生憎と逆光であり、カメラマンは構図に苦心しながらの記念撮影となる。出来上がりが楽しみだ。

ひと登りで沓掛山の肩に出る。ここからの景観がまた素晴らしい。根子岳をはじめ高岳、中岳、烏帽子岳、往生岳、杵島岳の阿蘇五岳が標示盤どおり眺められ、その先に祖母連山、さらにその先に見えるのは脊梁の山々か。

沓掛山の岩場をハシゴで下り、数少ないマンサクと見事な霧氷を觀賞して進む。星生分かれまでならかな雪道を、童心にかえって、岩から下がったツララにさわり、道ばたの霜柱も踏んで雪の感触を楽しむ。



星生山は初めてである。星生山の取りつきからは傾斜が増してくる。4～5センチはある長いエビの尻尾がまっ白で美しい。稜線までの最後の急登を、イワカガミの由来を聞きながら、イワカガミの茶色で光沢のある小さな葉に励まされて登る。

星生山頂からは、久住山を目の前に、大船山、平治岳、三俣山と以前に登ったくじゅうの山が一望できる。360度の眺めを満喫しながら昼食をユックリと摂る。

贅沢な一時であり、達成感と満足感に酔う。

星生分かれまでの下りは、登りとは異なるルートをとる。この道は余り利用されていないのか踏み跡

もやや少ない感じである。リーダーの計画では、登りを急なルートとし、下りを緩やかなルートにしたとの話であるが、どうしてどうして登りに負けない。いやむしろ登りよりも急な下りに思える。立木が小さいミヤマキリシマやドウダンツツジなどのため、つかまりにくく、しかも足元は滑りやすい。案の定すべり、しかもクルリと半回転してしまう。幸い怪我も汚れもなく内心ホットする。

下りついたところは昔の火口跡だろうか、地糖らしきものや、小さな池が数カ所あり池は凍っている。会員の何人かは、氷の上を歩いたり滑ったりして遊んでいるが、40数年前に、雲仙普賢岳の普賢池で滑っていた若き女性が、氷が割れて池に落ち、ずぶ濡れになったことが思い出される。君子危うきに近寄らずと静観する。

星生分かれからは大変だ。雪が解けて登山道は田圃同然。歩きづらいことこの上なし。滑ったら最後泥まみれになるだろう。ぬかるみを避けながら歩くが、スパッツも靴も泥だらけ。足にも負担がかかり疲れが増す。聞くとところによると、指山組も低山の割には相当難渋したらしい。リュックの背面を泥で化粧した人もいたようだ。

牧ノ戸峠でスパッツをとり、靴の泥を雪で丹念にこすり落として、バスに乗り込む。

長者原から指山登山口までマンサクを見に行く。今年は裏年なのか花が少ない。2週間前の偵察時とさほど変化がないらしい。花にはそれ程興味のない私だが、やはり花が少ないのはチョット残念。

キャンセル待ちで参加されたIさんとTさんのお二人は、晴れ男・晴れ女だと言うことで、今日は一日中その恩恵を存分に享受した。やはり天気が一番です。

4月から入会されるIさん、これからも山行に数多く参加して、皆を喜ばせて下さい。私にとっては本年度最後の山行が、最高の天気にも恵まれて幸せな一日になりました。

マンサクは少し物足りなかったが、早春の気配と冬の名残を十分に堪能することができました。ありがとうございました。

(兵庫 芳隆 記)

指山組

<行 程> 沓掛山 10:30→11:40 牧ノ戸 11:50~バス~11:50 長者原~昼食 12:35 長者原→
12:55 指山登山口→14:10 指山山頂 14:20→15:40 長者原 16:00~西諫早駅 19:30

<感 想>

沓掛山までは星生山組と一緒に行動しました。

さて、指山組ゆっくり組9名、「きれえかー、幸せかね」「ほんなこと最高ー!」「逆光でマンサクの黄色が見にくかとかがはがゆかね」「山頂のマンサクは5分咲き位でちょっとさびしかばってん、樹氷が付いとるけんきれえかー」など等。

きらめく樹氷が青空に映え、触るとサラサラと足元に舞いおりにきます。

淡い黄色の苔が、雪の帽子をかぶり、枝には透明の樹氷?霧氷?がついています。「ほんなことガラス細工のごたる、美しかー」としばし見惚れてしまいました。

雪山と霧氷とマンサクを心ゆくまで楽しみ・・・過

ぎて、気が付いてみると予定の時間を大幅に超過です。

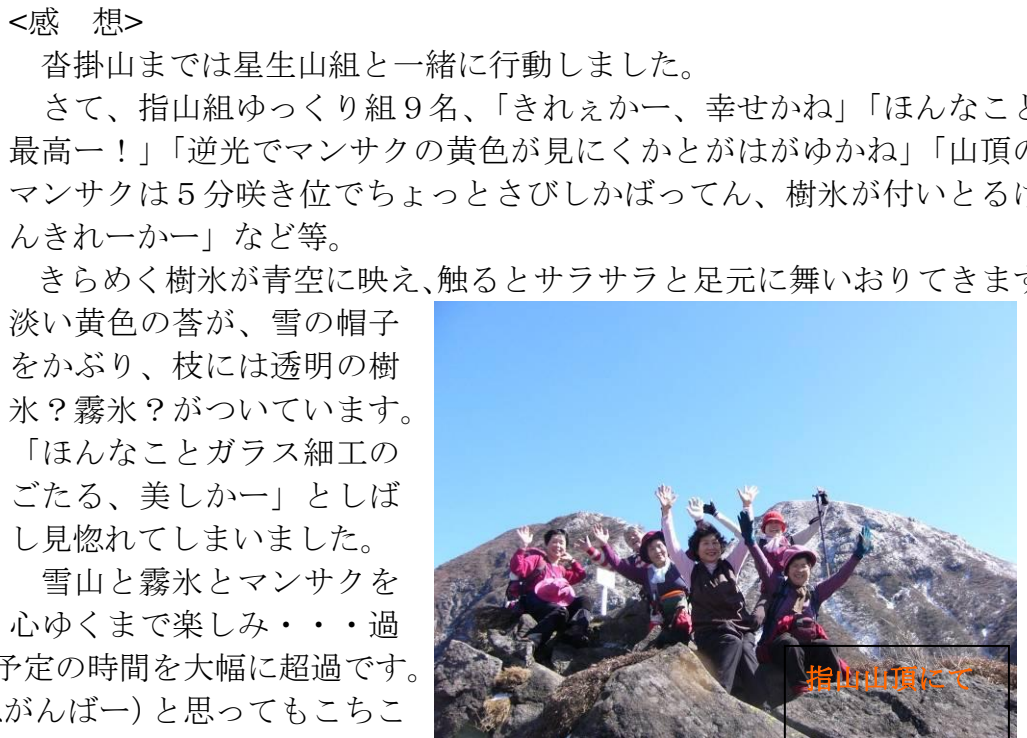
(こりゃいかん少し急がなばー) と思ってもこちこち、すべすべに凍り付いたコンクリートの下り道は思うようにいきません。アイゼンがない人が何人もいて、私もその一人でした。最初は用意していたのに、(ゆっくり組みには必要ないか) と、リックに入れなかったのです。へっぴり腰で恐る恐る下りました。

慣れぬアイゼン着脱に手間取ったり、樹氷に見とれてしまったりで、牧の戸を予定より40分遅れて出発。長者原で昼食を済ませ、指山目指して歩き始めたのが12時35分。

数年前にオレンジでミヤマキリシマ見物に訪れた時は丁度長者原から1時間で山頂に立っていました。今回は雪解け道を考慮して、1時間30分もあれば・・・との計算で余裕を持っての出發です。

牧の戸から長者原に下るバスの中から、レモン色の花を付けた立派なマンサクの木が何本か目に留まりました。しかし肝心の散策路ではほんの数本高い所に見られるだけで、期待したほどの数ではありません。(今年は不作の年なんやろか) と一人ごちつつ、それだけに青空に映える、細いリボンが纏れたようなマンサクの黄花が余計清らかで貴重におもえました。

山頂までの登山道は雪解け、霜解けのどろんこ道で、想定以上に難渋させられました。誰かさん



が「指山は『うつくしか花の山』と思うとったばってん『泥んこ山』にイメージが変わってしもうた」とこぼしておられました。

8合目あたりの最も急登にさしかかった時、Sさんから「待機したい」との申し出があり、救護のTさんと二人残っていただくことにしました。

残る7名は難渋しながらも無事山頂にたどり着き、手を伸ばせば届きそうな距離にある雪を被った三俣山の威容を仰いだ後、早々に引き返しました。

怪我しないことのみ祈りながら倒れ転びしながら、必死の思いで長者原を目指しました。どうにか30分遅れで長者原到着。

青空で天候に恵まれていても「雪解け、霜どけ道恐るべし！」と身をもって体験できた貴重な山行でした。

先にたどり着いた星生組の皆さん、ご心配をおかけしました。入浴の時間が消えてしまいごめんなさい。
(樋口千代 記)

3月27日(金) 千々石^{とけんやま}～杜鵑山(小浜町)

<参加者> 佐原 江崎 林 佐藤 会員4名 (外)井星1名

<行 程> 8:50 県営バス諫早駅前営業所→9:30 橘神社前バス停
10:30 橘神社バス停→木場バス停→11:30 山頂→13:00 杜鵑山→15:54 島鉄バス小浜営業所→17:00 頃諫早着

<感 想>

目的地が急に変更になったとのことであつたので、何名の参加者だろうかと思ひながら、家から出発地へ向けて歩いていたところ、途中江崎さんのご主人運転の車に拾ってもらつた。

8:50 発島鉄バスで県営バス諫早営業所を後にし、千々石町所在の橘神社へと向かい、9:30 ごろ第一の目的地橘神社境内に到着、桜がほぼ満開になっていて、いい時期に来れたと思つた。

境内には露店が並び、土曜、日曜と明日からは休みが続くので、花見客に備え、駐車場の線引きに何人かの人達が忙しそうにしていた。

我々5名は、橘神社に参拝し咲き誇る桜の下を「綺麗だ、綺麗だ」と言いながら通り過ぎ、木場までバスで行くことになっていたのも再び橘神社のバス停へ、木場までバスで行き、木場から山越えて山領へ、しばらく畑の側の道を歩くと石ころだらけの荒れた下り坂になった。その山道を「ホーホケキョ、ホーホケキョ」と鶯の鳴き声を聞きながら山領を目指して下って行つた。

小浜高校の側の薬師如来像、親鸞聖人像の所で休憩し、11時30ごろ同所を出発、国道を小浜まで海を眺めながら歩き、13:00 杜鵑山の頂上に所在する生目八幡宮に到着、参拝後桜の木の下で昼食、杜鵑山一帯も桜が満開で、その景色の見事なこと、私には文学的才能があればもっと違った表現になっていたと思われるが、残念ながらそのような才能がないので、上記のような表現に留まつた。

我々が昼食していた所の下の方では、金曜日であつたにもかかわらず、職場での花見なのか20名ぐらいの若い人が「わいわい」騒いでいたし、家族連れの花見客も何組か訪れていた。

14:00 杜鵑山から下山を開始し、小浜の温泉街へ、そこで風呂に入って汗を流し、15:54 発の島鉄バスで小浜営業所を後にし、17:00 ごろ諫早に着いた。

最後に感想としては、天気も良かったし、ほぼ満開の桜の名所橘神社境内の桜、杜鵑山の桜等の花見をしながらの山登り、私にとっては最高の一日でした。

(佐藤伯隆 記)

4 月 8 日 (水) 長崎原爆遺構巡り

<参加者> 宮島、平、川原、松尾ト、坂口、佐藤、佐原、川内、金丸ナ、松園、林田、
田中ヒ、江崎、中野、森マ、中村カ 外、近藤 計 17 名

<行 程>9:20 浦上駅～国鉄原爆死没者慰霊碑～旧医科大学正門門柱～一本足鳥居、山王神社
～10:30 穴弘法～11:40 金比羅神社～12:10 山頂 (昼食) ～12:45 発～13:30 浦
上天主堂、鐘楼ドーム～14:20 永井博士記念館、如己堂～平和公園～山里小学校～城
山小学校～15:00 解散

<感 想>

本日は、原爆遺構巡りで、久しぶりにオレンジの皆さんと歩けるのを楽しみに参加しました。浦上駅から穴弘法へ。僧侶から茶の接待と説法を頂き歩みを進め。金比羅山頂からは残念ながら、霞みがひどくて、いつもは見える平成新山、九千部岳を見る事ができませんでした。

浦上天主堂、如己堂、平和公園をまわり、城山小学校では、資料館のボランティアガイドの方から、嘉代子桜にまつわる事や、多くの若い女性教師の被爆写真等の話を聞き改めて戦争の悲惨さを考えさせられました。

語り部をして下さったNさんを始め皆様に感謝。ありがとうございました。

(近藤 記)

大山登山に参加された8人の皆さんに今回を第1回として、それぞれに原稿を寄せていただくことになりました。ご期待ください！

大 山 登 山 報 告

松園 朱實

4月17日(金)1日目 晴れ

中国山地を抜って走る中国自動車道は、新緑と石州瓦のコントラストが美しかった。

山つつじ、こぶし、山桜、山吹等が車窓を額に絵画のように現れては流れた。

溝口からの杣水ルートに姿を見せた大山は、伯耆富士の名のとおり端正な山容で思わずため息が出た。鎗水車の最新ナビは、最短距離で我々一行を大山ビューハイツまで連れてきてくれたので、予定より早く到着。

宿舎のまん前の中原スキー場の背後には、大山北壁がその全容を見せて立ちはだかっていた。大山は見る角度でその山容をガラリと変化させる。

宿の主人の話では、4月2日に降った雪のせいで、岩肌には雪がまだたくさん残っている由。川原CLが早速北面の説明をしてくれる。坂口氏から事前にもらっていた北壁概念図を思い浮かべながら話しを聞いていたが、この山に登るのかと思うと一瞬身震いを覚えた。



4月18日(土)2日目 晴れ

6時起床、窓の外には昨日の大山北壁が早朝の澄んだ空気の中に荒々しい姿を見せている。晴天である。雲ひとつない青空に幸運を感謝する。

気象の変化を考え、予定を変更して本日弥山に登ることになった。登山口を少し登った阿弥陀堂で参拝と体操をして出発。

登坂隊長は坂口氏である。いつの間にか坂口、山崎、米田の三人は先行し姿が遠くなる。私は体が重く、足がなかなか先に進まない。酸素の取り込みが悪いのを感じながら辛抱の登りが続く。鎗水氏と前後しながら登るが、3合目、4合目、5合目と、1合目ごとに休憩を取らなければ体がきつい。休んでいると中須賀、篠原、川原CLが追いついてくる。



篠原氏のおちょくり反応していると何となく元気が出てきた。

5合目くらいから雪が現れ、涼しさを感じるようになる。体が登りに慣れたのかきつさが軽くなってきた。6合目避難小屋で、先行の三人が待っていた。既にスパッツ、アイゼン、サングラスをつけ装備は完璧である。我々が着くとこの三人は直ぐ雪の急斜面を元気に登って行った。すばやく身支度をし、あまり遅れないよう三人の後を追う。

6合目からは急登になったが、雪道のせいあまりきつさを感じない。ダブルストックが功を奏し調子がよい。雪を楽しみながら登って行くと、8合目で米田さんが手を振っているのが見えた。途中からアイゼンをはずし、後はストックとキックステップで登っていくことにした。8合目からは木道のだらだら登りになるが、前方に弥山の山頂が見えているので希望が沸く。山頂小屋を過ぎると、三人が並んで座って手招きしているのが見えた。

やっと到着、丁度3時間かかっていた。間もなく鎗水氏が姿を見せ、昼までには全員が無事登頂した。「この達成感を味わうために山に登っている」のだとしみじみ思った。

帰りは5合目から行者コースで帰途に着く。元谷小屋から大神山神社奥宮へ下り、大山寺を經由して宿に着いた。全員大満足、スキー場で飲んだビールの美味しかったこと。

4月19日(日)3日目 晴れ

今日は元谷で氷雪技術訓練である。

ラッセル数種、ピッケル登坂、ピッケルでの滑落停止、ピッケルなしでの滑落停止、耐風姿勢、アンザイレン歩行、スタックカット、コンテナスなどの技術をペアで練習した。

ペアの組み方は(川原・米田)(坂口・山崎)(鎗水・松園)(中須賀・篠原)である。

最初の種目は川原CLの手本にそって各自体験を積み、歩行の種目では川原・米田ペアの動きを真似して履修していく。

～夫々のペアの様子は、多分皆さんの想像通りです。～

この日は、なんと言っても川原CLの偉大さを再認識する一日になった。

身支度の素早さに驚き、技の格好良さに見とれた。

往年の長島が、内野ゴロをさばきながらサードからファーストへスローイングする姿を見たことがあるでしょうか。

日頃のご無礼をお許し下さいと言いたくなった。

4月20日(月)4日目 曇りのち雨

大山に別れを告げ、米子から山陰自動車道をひた走り、石見銀山を目指す。

鳴き竜天井で有名な城上神社からスタートし、銀山資料館、大森の町並みから龍源寺間歩(最大式の横穴式坑道)を見て回る。時間が限られているのでハイライトだけの見学であったが、大森の町はまるで時代に取り残されたような佇まいをみせていた。

道の駅川本で遅い昼食を済ませ、大朝 I C から浜田自動車道に入り、千代田 J C S で中国自動車に乗り換え、小休憩を取りながら帰途についた。

広島あたりから降り出した雨は、九州に入ってから大降りになったが、基山 P A で夕食をとった後は小降りになり、佐賀ではぱったり止んで喜ばせたが、諫早到着時はまた雨、給油所で荷物の積み替えをして、坂口、鎗水の両氏には夫々の自宅まで送り届けていただいた。自宅に 2 1 時 3 0 分無事帰着。

うそのように天気に恵まれた山行であったが、おそらくオレンジ H C に入っていなければ体験できなかった山行でもあったと、それぞれの役割を分担していただいた同行のメンバーに心から感謝している。

私にとって今回の大山は記念に残る思い出深い山行の一つになった。

祖母山系

4 月 11(土)～12 日(日) 緩木山(1046m)・越敷岳(1022m)・筒ガ岳(1296m)

<参加者> C L 川原 S L 佐原 S L 米田 坂口
山下 福岡 平 松尾ト 岩永ノ(会計)|
中須賀 兵庫 川内 樋口 中村か
林 水江 山崎(会計)井星
(こもれび藤瀬 石橋 村川 宇野)
会員 18 名 外 4 名



宿舎「こしきの杜」前にて

<行 程> 11 日(土)

6:00 諫早駅裏～6:10 西諫早駅～金立～
玖珠 I C～10:00 竹田道の駅～11:00 九
重野総合交流促進施設こしきの杜 11:15
緩木山登山口 11:20→12:00 五輪塔→
12:25 緩木山山頂—昼食—13:00→15:05 越敷岳 15:20→16:40 こしきの杜～温泉～こし
きの杜泊

12 日(日)

こしきの杜—緩木神社見物 7:50～県道 8 号～筒ガ岳林道～8:40 登山口→9:40 展望岩
9:50 筒ガ岳山頂—10:00—岩場降り—11:00—はさみ岩—駐車位置 11:40～12:00 三秀台
—昼食—13:00～14:50 温泉(久木野) ～15:30～広川 16:45～諫早 18:30



エイザンスミレ

<感 想>

11 日(土) 今回登る山は、^{ゆるぎ}緩木山・^{こしき}越敷岳・筒ガ岳、いずれもあまり聞きなれない山名だが、祖母山系にある千メートル級の山。リーダーの説明によると「祖母・傾山・阿蘇全山・九重山全域・遠くは五箇の荘・球磨地方の山を望む九州一の展望の山」とのこと。

「桜がきれいーかー」「山桜もソメイヨシノも一緒に咲いちよるね」と見とれているうちに 5 時間のバスの旅もアツというま。林道を 15 分程入った所に「緩木山登山口」の標識有り。かわいいエイザンスミレに出迎えられる。

頂上まで 1 時間 1 0 分、明るく開けた山頂は昼食にもってこい。期待の眺望はお天気の良いわりにはいくぶんかすんでいて少しボーとした感じ、15 分程経ってゆっくり組も到着。全員で記念写真、を撮り、ゆっくり組はここまで、後はのんびりと小宴会。

残りのメンバーはいよいよ越敷岳への縦走コースへ出発。かなりの長丁場とあって、少しハイペ

ース、アップダウンを繰り返し、越敷岳まで2時間余。先頭の方で「あっ！アケボノツツジ！」と言う声が聞こえ、疲れも吹っ飛んでしまい、「ガシャガシャ」と夢中でカメラのシャッターを押す。花の時期には少し早く、数は少ないが、越敷岳直下には枝一杯に花を付けたアケボノツツジと5センチ程のショウジョウバカマも目に留まる。

ハサミ岩というおもしろい岩があり、太めの私は（大丈夫かな、お腹の辺りが・・・）と少々緊張して通ったしだい。その晩、宿舎の管理人の井出さん、通称「クマさん」から「あの岩は、日頃の行いが悪か人が通り抜けようとすと、岩が動いて締め付けられるとですよ」と教えられた。前もって知っていたらもっと緊張したかも・・・。

その晩の宴会の盛り上がったことといったら、なにせテーブルには井出さんご夫婦の心づくしの山の幸に加え、こもればの皆さんの差し入れや、めいめいが持ち寄った馳走がてんこ盛りである。圧巻は井出さん差し入れの「鹿肉のお刺身と猪鍋」恐る恐る口にしたお刺身は美味で一番の人気。また、差し入れの料理もさることながら、クマさんご夫妻の温かく、純朴で人なっこい人柄に誰もが魅入られてしまった。かくて楽しく夜は更けていったが、板壁一枚での遅くまでの宴会や、寝袋騒動等の反省すべき材料も。

12日(日)



筒ヶ岳

さて、今日は筒ヶ岳(1296m)を目指すことに。筒ヶ岳は、「五ヶ所高原を見下ろす岩の孤峰である」とあったが、筒のように突っ立っている姿は登頂意欲をそそられる。

オレンジが信頼する井上運転手さんに全員の命を預けて、狭い凸凹の林道をマイクロバスで奥へ奥へと進む。どの位登ったろう、いよいよ今回の山行の楽しみの一つである岩山への挑戦だ。

鹿垣、猪垣の網が張ってある、分りにくい道を通り主稜線にでると、間もなく頂上直下、大きな岩塊にぶつかった。岩には梯子

が取り付けられており、緊張しつつも無事岩上にでる。

山頂は360度の雄大な眺めが広がっていたが、残念にも少し霞みがかっていて、低く連なる外輪山の果てに阿蘇山、久住連山がかすかに見える。祖母山は目の前。足元にはミヤマキリシマや、キバナシャクナゲが荅を付けている。下りは、日頃オレンジが取り組んでいるセルフレスキューの実地訓練となり、ロープを用いて岩塊を下ることになった。「ブーリン結び、これでよかった？」自信のない私はおろおろ。

数人の方が手際よくロープを取り付け準備完了。一人ずつロープで体を支え、命綱を頼りに岩を降りるのだ。おっかなびっくりながら、日頃の訓練の成果を発揮して無事全員が降りるのに1時間余、貴重な体験が出来たひとときだった。

三秀台で、昼食となったが、山々の景観の素晴らしいこと。登ったばかりの山を仰ぎながら、春リンドウの中で食べた雉飯の弁当の味も忘れられない。

こうして振り返るといろいろと盛りだくさんの思い出がいっぱいだが、やはり一番は井出さんご夫婦の笑顔とテーブルに並んだご馳走の山。

皆さんお疲れさま。お世話になりました。



通称クマさんに見送られて出発

(樋口千代 記)



根子岳・高岳・中岳



沓掛山途中の展望台にて

ある日
あの山
Kujiyū Hossyoosan
Yubiyama



沓掛山へ

樹氷に煌めく
マンサクの花



指山へ



屋土山山頂